

減らそう犯罪 推 進 会 議	令和元年度「県民の安心感に関するアンケート調査」の実施結果について	令和元年11月21日 生 活 安 全 部
-------------------	-----------------------------------	-------------------------

1 趣旨

第4期アクション・プランの運動目標に掲げた「体感治安の向上」の達成状況の確認と目標達成に向けた取組の一層の推進を図るため。

2 調査方法等

- (1) 実施期間：令和元年9月16日（月）から10日間
- (2) 調査方法：交番・駐在所等に勤務する警察官が戸別訪問により実施
- (3) 有効回答数：2,276人（男性1,110人，女性1,166人）

3 主な調査結果

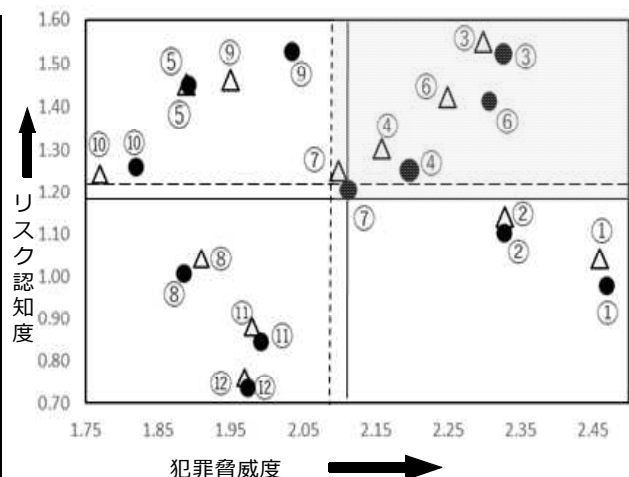
(1) 体感治安の現状

	H28	H29	H30	R1
治安良好と回答した割合	76.7%	77.9%	92.7%	93.8%
増減(前回調査比)	—	+1.2	+14.8	+1.1

※H30年度調査から「どちらともいえない」の選択肢を削除し、5択から4択に変更

(2) 体感治安の向上に向けて重点的に抑止対策を行うべき犯罪

①殺人・強盗などの凶悪な犯罪
②暴行・傷害などの粗暴な犯罪
③空き巣などの家宅に侵入しての犯罪
④ひったくり、路上強盗などの路上犯罪
⑤乗り物盗難や車上ねらい
⑥子供を狙った声かけや性犯罪
⑦痴漢、盗撮や強制わいせつなどの性犯罪
⑧ストーカーやDV（配偶者からの暴力）
⑨振り込め詐欺などの特殊詐欺
⑩インターネットを利用した犯罪
⑪暴力団による犯罪
⑫テロ事件



凡例

リスク認知度：被害に遭う可能性を感じる程度
—令和元年の平均値 …平成30年の平均値

犯罪脅威度：犯罪そのものの怖さの程度
●令和元年度 △平成30年度

- 犯罪脅威度とリスク認知度がともに平均値より高い犯罪は4件（③侵入犯罪，⑥子供を狙った性犯罪，④路上犯罪，⑦強わいなど性犯罪）
 - ⑨特殊詐欺と⑩インターネット利用犯罪が脅威・リスクともに増加
- (3) 防犯行動に影響を及ぼす主な犯罪情報の喚起形態

家族・親族	警察官	隣人・友人	テレビ・ラジオ・新聞	町内会役員や防犯ボランティア
64.9% (62.1%)	50.6% (53.5%)	27.3% (25.5%)	17.5% (18.2%)	10.7% (10.9%)

() 内の数字は前回調査時の数値



県民の安心感に関するアンケート調査結果（令和元年）

1 趣 旨

第4期アクション・プランの運動目標に掲げた「体感治安の向上」の達成状況を確認するとともに、目標達成に向けた取組の一層の推進を図るため、地域住民に対するアンケート調査を行ったもの。

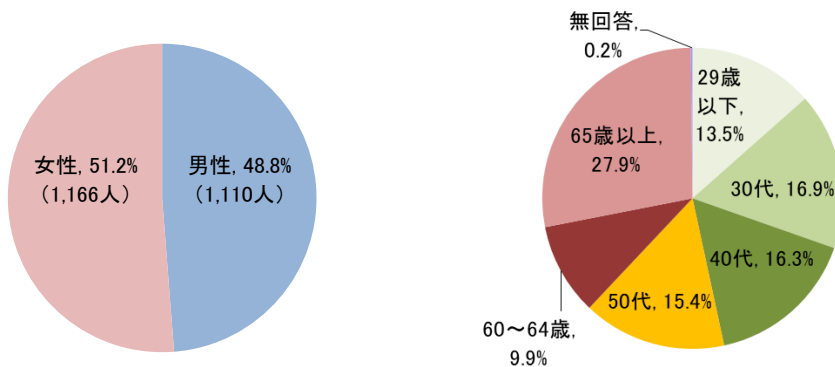
【把握すべき事項】

- ① 体感治安の現状
- ② 体感治安の向上に向けて重点的に抑止対策を行うべき犯罪
- ③ 警察の取組に関する認知度
- ④ 防犯行動に影響を及ぼす犯罪情報の喚起形態
- ⑤ 体感治安に影響を与えるその他の要因

2 調査方法

- 実施期間：令和元年9月16日～9月25日
- 調査方法：交番・駐在所等に勤務する警察官が受持区域の住宅等を戸別訪問するなどして実施。
- 有効回答数：2,276人（無効回答：31人）

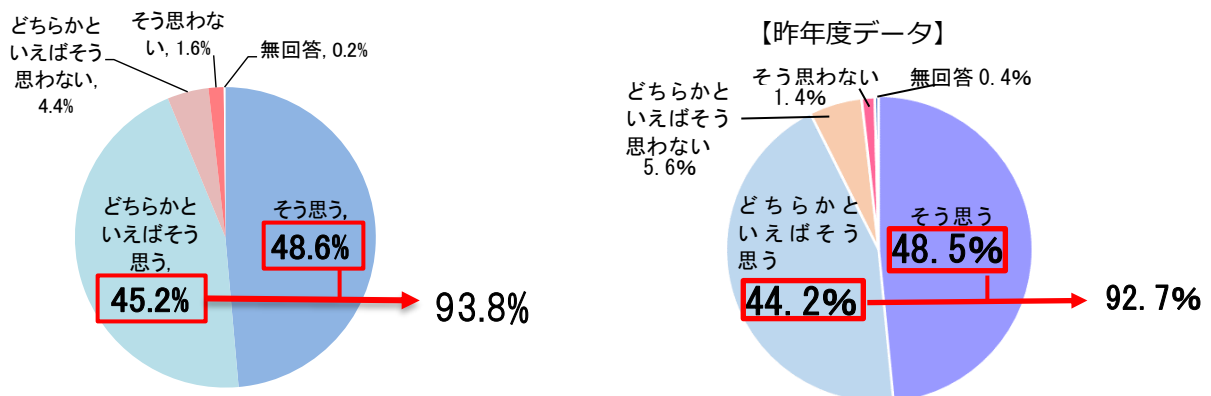
性別・年齢の内訳



3 調査結果

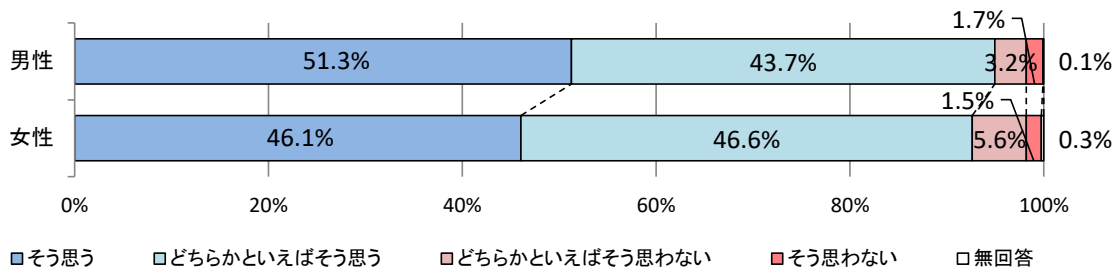
① 体感治安の現状

問 現在、あなたがお住まいの地域は、治安が良く、安全で安心して暮らせる地域だと思いますか。

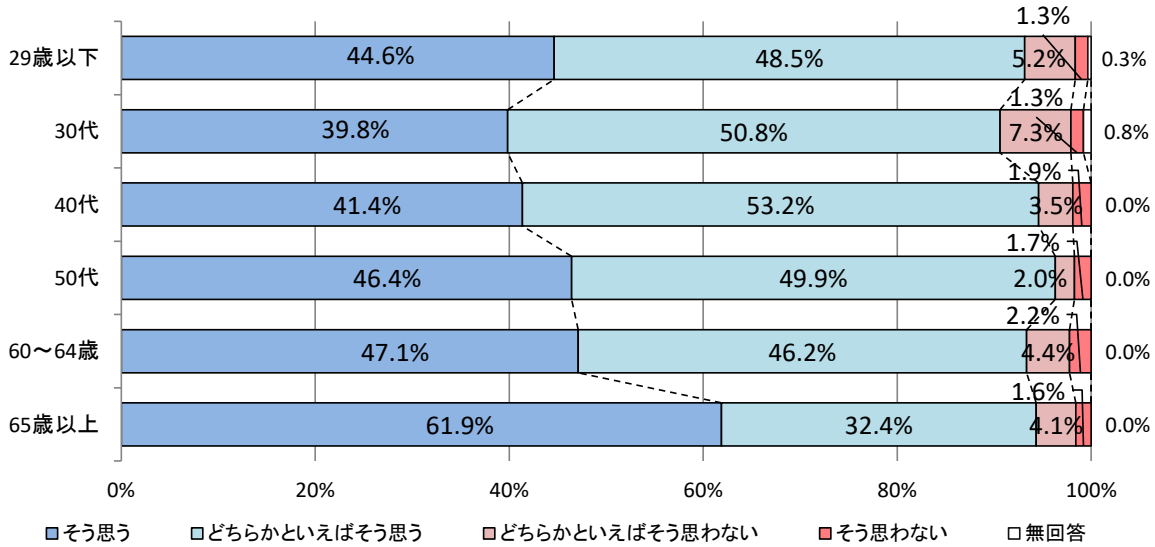


属性別の体感治安

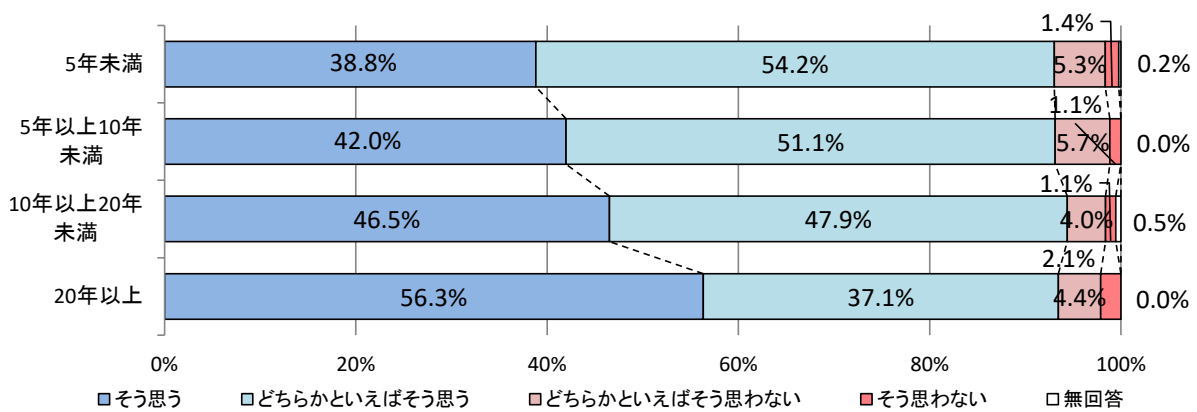
男女別 現在、あなたがお住まいの地域は、治安が良く、安全で安心して暮らせる地域だと思いますか。(以下同じ)



年齢別



居住年数別



- 男女別では、治安良好と回答した男性は女性と比べて2.3ポイント高い。
- 年齢別では、体感治安が良好と感じる年代は50代が最も高く、30代が最も低い。
- 居住年数別では、居住年数に比例して、「そう思う」と回答する人の割合が高くなっている。

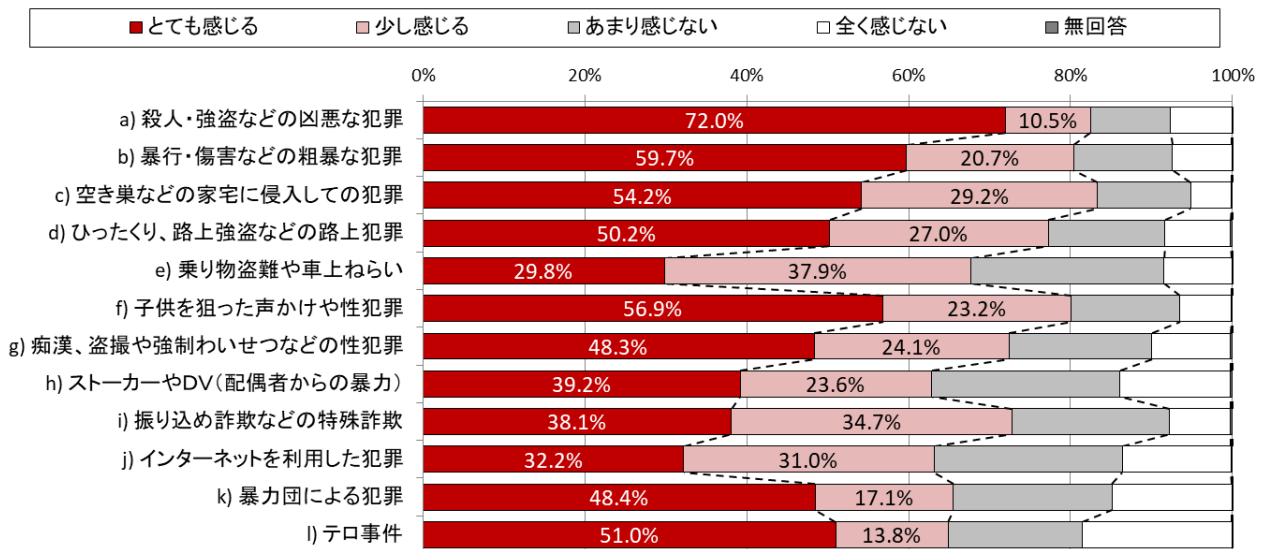
治安良好と思わないと回答した理由

人のモラルが低下した（交通違反・マナー違反・迷惑行為が増えた）	17人
不審者（情報）が増えた	14人
本人や身近な人が犯罪被害に遭った、遭いそうになった（アポ電等）	13人
質問した地域内で実際に犯罪が発生した	9人
来日・在日外国人が増えた	6人
地域の連帯感が希薄になった（知らない人が増えた、近隣トラブルがある）	6人
空き家が増えた、過疎化が進んだ・街灯等の防犯施設	6人
その他	12人
無回答	30人

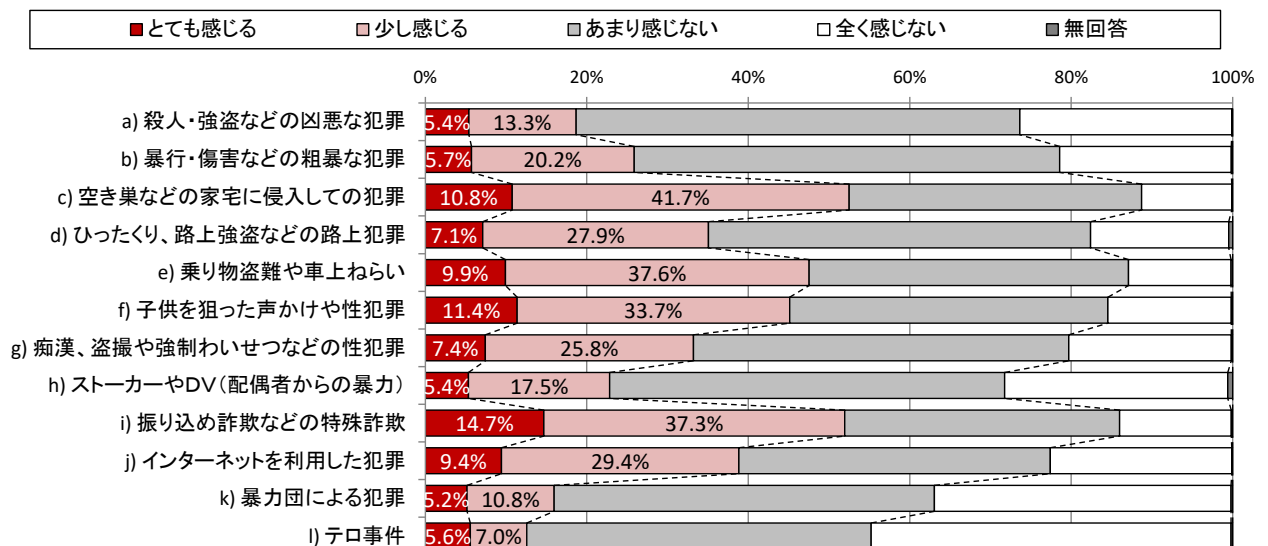
※ フリーアンサーで得た回答を分類したものの。

② 体感治安の向上に向けて重点的に抑止対策を行うべき犯罪

問 あなたは、次の各々の犯罪に対して、どの程度「怖い」と感じますか。【犯罪脅威度】



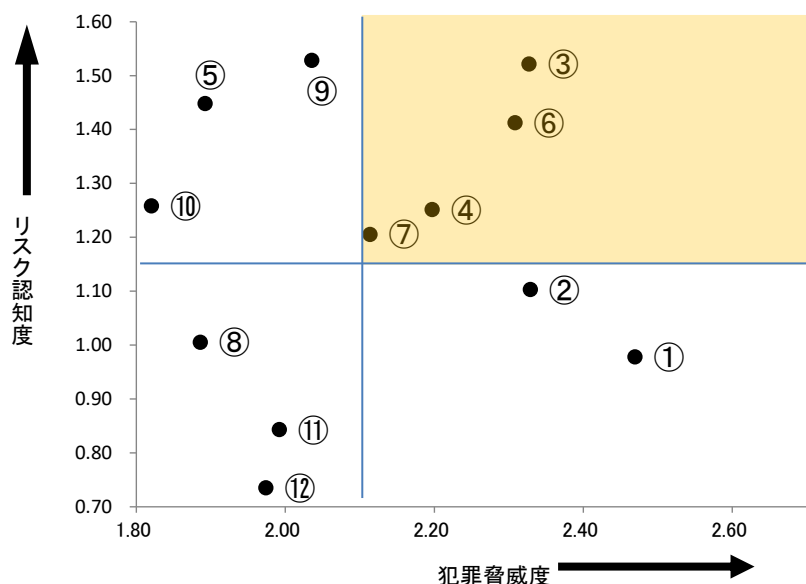
問 あなたは、お住まいの地域で、次の各々の犯罪に対して「自分や身近な人が被害にあう可能性」をどの程度感じますか。【リスク認知度】



犯罪脅威度 × リスク認知度

	犯罪脅威度	リスク認知度
①殺人・強盗などの凶悪な犯罪	2.47	0.98
②暴行・傷害などの粗暴な犯罪	2.33	1.10
③空き巣などの家宅に侵入しての犯罪	2.33	1.52
④ひったくり、路上強盗などの路上犯罪	2.20	1.25
⑤乗り物盗難や車上ねらい	1.89	1.45
⑥子供を狙った声かけや性犯罪	2.31	1.41
⑦痴漢、盗撮や強制わいせつなどの性犯罪	2.11	1.21
⑧ストーカーやDV(配偶者からの暴力)	1.89	1.01
⑨振り込め詐欺などの特殊詐欺	2.04	1.53
⑩インターネットを利用した犯罪	1.82	1.26
⑪暴力団による犯罪	1.99	0.84
⑫テロ事件	1.97	0.74

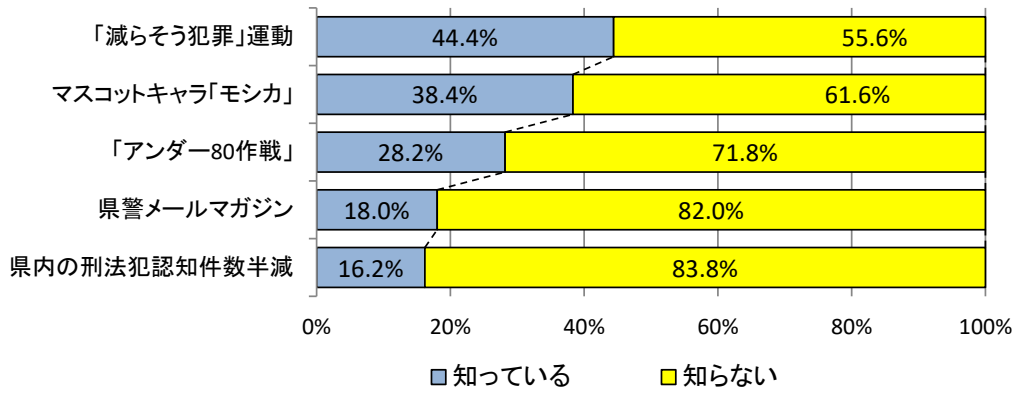
※ 犯罪脅威度・リスク人認知度とも、「あまり感じない」=1点、「少し感じる」=2点、「とても感じる」=3点として算出した加重平均値。



- 身近な犯罪（侵入窃盗，路上犯罪など）や子供・女性を狙った犯罪，特殊詐欺などが，犯罪脅威度（犯罪そのものの怖さの程度）とリスク認知度（被害に遭う可能性を感じる程度）がともに高い。
- 一方で，①殺人・強盗などの凶悪犯罪の脅威度は高いがリスク認知度が低く，逆に⑩インターネット犯罪はリスクの認知はされているが，脅威度は低いと感じられている。

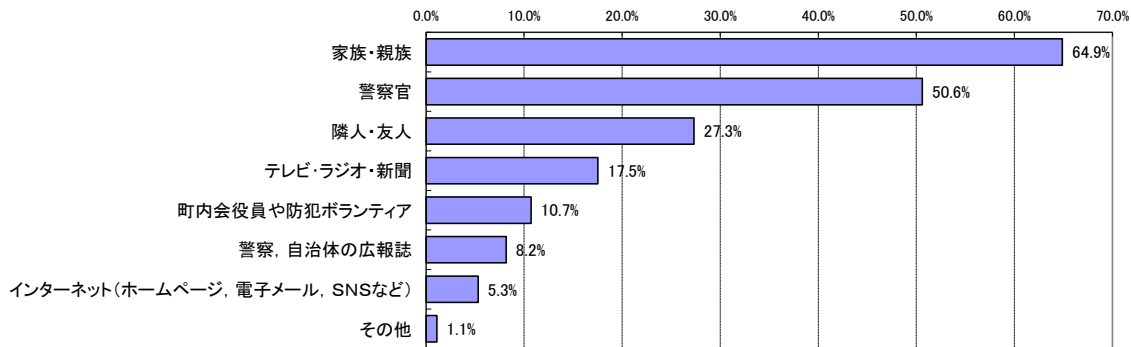
③ 警察の取組に関する認知度

各項目の認知度



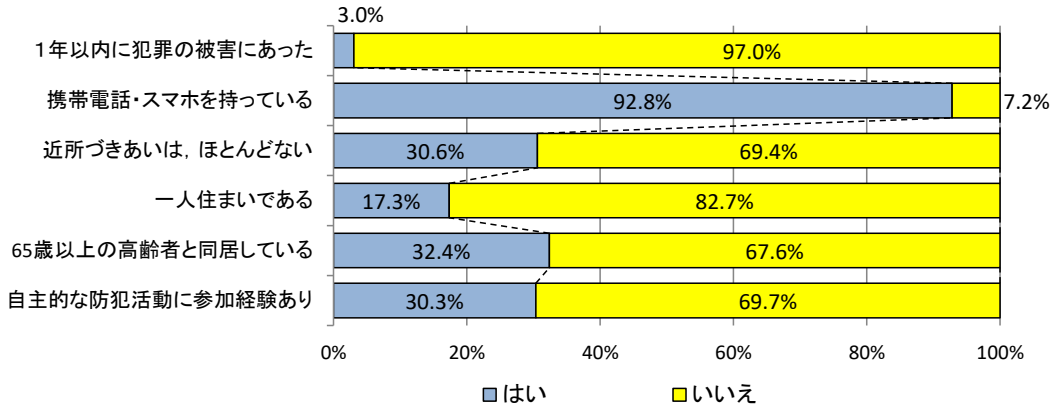
- 「減らそう犯罪」運動の認知度が最も高く 44.4%、以下「モシカ (38.4%)」、「アンダー80 作戦 (28.2%)」の順で、最も認知度が低かったのが県内の刑法半認知件数の半減 (16.2%) であった。

④ 防犯行動に影響を及ぼす犯罪情報の喚起形態

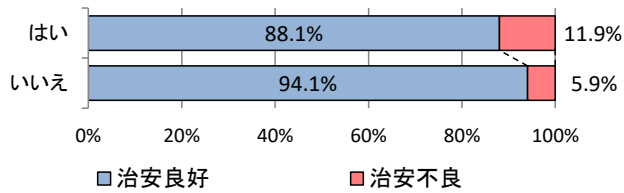


- 約3人に2人が「家族・親族」の注意喚起に応じて防犯行動をとると回答している。
- また、約2人に1人が「警察官」による注意喚起で、約4人に1人が「隣人・友人」の注意喚起で防犯行動を起こすとしている。

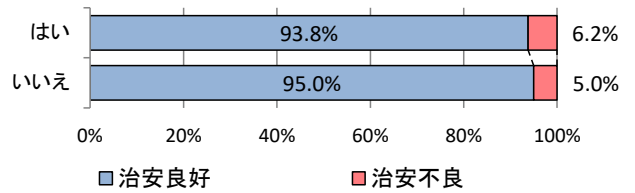
⑤ 体感治安に影響を与えるその他の要因



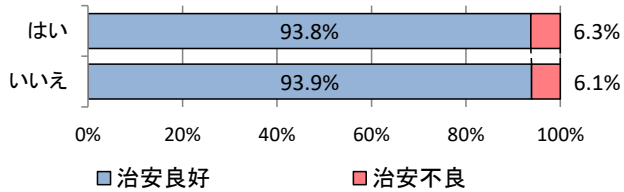
この1年間に、犯罪の被害にあったことがある



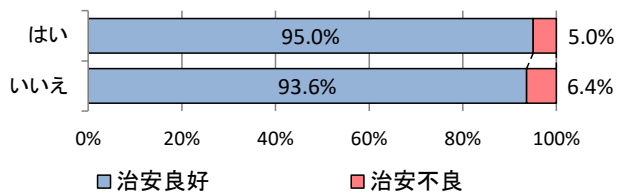
携帯電話やスマートフォンを持っている



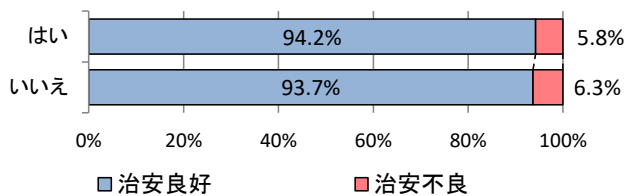
近所づきあいは、ほとんどない



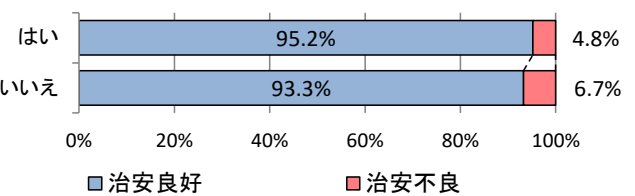
一人住まいである



65歳以上の高齢者と同居している



自主的な防犯活動に参加したことがある



- 防犯活動への参加は、体感治安を良くする方向に作用しているといえる。